

# おひさまだより

2024年1月号

社会福祉法人 尚徳福社会  
生麦保育園 園長 田淵弘子

あけましておめでとうございます。  
今年もどうぞよろしくお願いいたします

冬休みは楽しめましたか？少しずつ、普段の生活リズムに戻せるよう、体調を整えていきましょう。園庭を吹き抜ける北風がますます冷たくなり、冬本番の到来です。寒さの中でも、子どもたちは元気に遊ぶことでしょう。今年はどうな一年にしようかとご家族でお話をされたのではないのでしょうか？幼児クラスは、子どもたちとどんなことに挑戦したり、頑張ったりしたいか話し合っています。乳児クラスは今年もどのような成長を見せてくれるのか職員一同楽しみにしています。

今月は生麦中学校の2年生が2日間に渡り職業体験に来園したり、高砂会の方々が昨年の焼き芋会と同様に、子どもたちと伝承遊びを楽しんだり、一緒に給食を食べたりしにお越しくださいます。年の初めから賑やかな生麦保育園になりそうです。

## 1月の行事

11日（木）英語であそぼう

12日（金）高砂会と伝承遊び（3オウさぎ組・4オきりん組・5オぞう組）

17日（水）おはなし会

19日（金）小学校交流（予定）（5オぞう組）

22日（月）にこにこサロン（5オぞう組）

23日（火）避難訓練・生麦中学校職業体験一日目

24日（水）生麦中学校職業体験二日目

25日（木）英語であそぼう・バイキング（3オウさぎ組・4オきりん組・5オぞう組）

27日（土）ぞう組懇談会

29日（月）乳児誕生会

30日（火）幼児誕生会

### あひる組



冬休み明け子どもたちの笑顔はピカピカ。賑やかな楽しい生活がまた始まります。少しずつ自分でできることの援助を行います。子どもたちの甘えにも十分応えてあげたいと思います。

楽しい遊びの空間を共有することもできますが、友だちが使っているものを欲しがったり、興味のあるおもちゃが同じ時は相手を押ししたり、叩いたりしてしまうことがあります。ケガに繋がらないよう保育士も最新の注意を払いながら、手を出さずだけでなく、言葉で伝えたり、保育士が気持ちを代弁したりして、遊びを展開できるよう配慮しています。

### りす組



「自分で〇〇したい」という気持ちが芽生え始めています。一人でできることが多くなりましたが、なかなか思い通りにいかず泣いたり癩癩を起したり、友だちに当たったりしています。焦らずに一步一步前に進んでいけたらと思っています。今まではテラス遊びだったのが、園庭に降りてきて遊ぶことを楽しんでいます。砂場遊びだけでなく、幼児クラスのお兄さん・お姉さんの遊びの真似を試みたり、一緒に仲間に入ったり・・・幼児クラスの子が優しく関わっている姿にほっこりしますが、対等に遊ぶ気満々のりす組の子たちには思わず笑みがこぼれてしまいます。

### うさぎ組



友だちとの関わりや活動への集中力など一人一人の成長も、クラスとしての成長も感じています。集団の中だからこそ育っていくところたくさんありますが、集団の中だからこそ苦しいのかなと思うところもあり、子どもたちの姿には、保育士たちが丁寧に関わりを行うよう心がけています。友だちのできないことを手伝ったり、困っている様子を見て声をかけたり助けてあげようとする様子に、感心している私です。きっと私が困った顔をしたら『えんちようせんせい、どうしたの?』と心配したり励ましてくれたりするうさぎ組のみんなだと思います。

### きりん組



お楽しみ会で一人一人の作品が最後に大きな絵になりました。その経験もあり、クリスマス飾りは各々が工夫を凝らして制作したクリスマスの絵がまとまって、とても大きなクリスマスツリーになりました。廊下に展示してありましたが、通るたびに足を止めて眺めてしまうくらい素敵なものでした。小さな力をみんなが合わせると大きな力になるということ、お楽しみ会を通じて少しわかってくれたかな・・・私たちの役割は、子どもたちの行った行動に対して、認めたり褒めたり（時には注意をすることもありますが）、通り一遍にしてしまうのではなくその時の言葉かけを大切にしています。その言葉が子どもたちの心に留まり、記憶として残ることが成長していく過程でとても大切なことだと思っています。

### ぞう組



少しずつ小学校に向けて、一人一人が意識できるよう工夫をしています。「小学校は楽しいところ」と思ってほしいです。先日訪れた生麦小学校の一年生との交流会では、秋のドングリを使って遊ぶコーナーがいくつかあり、一年生とペアになり遊んでいました。保育園では一番上のクラスのお兄さん、お姉さんですが、小学生と手をつないでいる姿は幼く感じました。でも来年はきっとこの一年生のように成長することできるでしょう。後日、小学校に楽しい時間を過ごせた気持ちを絵に描きお届けしました。

よく気が付く子どもたちですが、自分が聞かれたからではなく、耳に聞こえたらつい答えてしまう子どもたちなので(笑)周りの様子や状況を判断し気が配れるよう、関わっていきたいです。